

感染症発生動向調査に基づく2002～2004年の罹患数推計値

ハシモト シュウジ カワド ミユキ ムラカミ ヨシタカ タダ ユキ
 橋本 修二* 川戸美由紀* 村上 義孝^{2*} 多田 有希^{3*}
 シゲマツ ミカ タニグチ キヨス イズミダ ミチコ ナガイ マサキ
 重松 美加^{3*} 谷口 清州^{3*} 泉田美知子^{4*} 永井 正規^{4*}

目的 感染症発生動向調査に基づいて、インフルエンザ・小児科・眼科定点対象疾患について、すでに提案された方法を用いて、2002～2004年の罹患数を推計するとともに、その偏りの吟味を試みた。

方法 2002～2004年の各定点の感染症報告数および2002年の全医療施設数と各医療施設の外来患者延数を用いた。全医療施設から定点が無作為に選定という仮定の下で、罹患数の推計値と95%信頼区間を求めた。定点での感染症報告数を目的変数、外来患者延数を説明変数とする回帰式において、外来患者延数を代入して、全医療施設での仮説的な感染症報告数を設定した。定点での仮説的報告数から同じ方法で罹患数を推計し、全医療施設での合計（罹患数の真値に相当）と比較した。

結果 罹患数推計値はインフルエンザでは2002年が736万人（95%信頼区間：696～775万人）、2003年が1,156万人（同：1,107～1,205万人）、2004年が895万人（同：857～933万人）であった。小児科・眼科定点の14対象疾患では2002年の百日咳の1.1万人（同：0.8～1.3万人）から2004年の感染性胃腸炎の746.9万人（同：687.8～805.9万人）の範囲であった。仮説的報告数に基づく罹患数推計値は真値の1.07～1.33倍であった。

結論 インフルエンザ・小児科・眼科定点対象疾患の2002～2004年の罹患数推計値を示した。これはおおそ全国の流行規模の目安を与えると考えられた。ただし、一定の仮定の下で算定されたものであって、過大評価の可能性が高いことに留意する必要がある。今後、罹患数の推計方法の検討を進めることが大切であろう。

Key words : 罹患, 感染症, インフルエンザ, サーベイランス

* 藤田保健衛生大学医学部衛生学講座

^{2*} 滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門

^{3*} 国立感染症研究所感染症情報センター

^{4*} 埼玉医科大学公衆衛生学講座

連絡先：〒470-1192 愛知県豊明市杓掛町田楽ヶ
 窪 1-98

藤田保健衛生大学医学部衛生学講座 橋本修二